



このコンテンツは公開から3年以上経過しており内容が古い可能性があります
最新情報については[サービス別資料](#)もしくはサービスのドキュメントをご確認ください

[AWS Black Belt Online Seminar] AWS Config Update

サービスカットシリーズ

Archived

Security Solutions Architect 桐谷 彰一
2020/12/08

AWS 公式 Webinar
<https://amzn.to/JPWebinar>



過去資料
<https://amzn.to/JPArchive>



自己紹介

名前：桐谷 彰一（きりたに しょういち）

所属：ソリューションアーキテクト セキュリティスペシャリスト

経歴：セキュリティベンダー、ネットワークベンダーのプリセールスエンジニア
エンタープライズ、官公庁のお客様のセキュリティ対策のご支援

好きなAWSサービス：



Amazon GuardDuty



AWS Security Hub

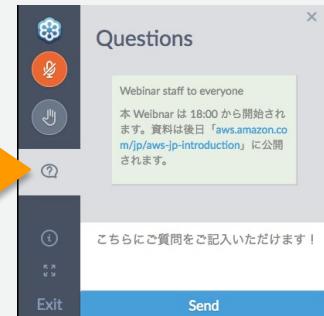
AWS Black Belt Online Seminar とは

「サービス別」「ソリューション別」「業種別」のそれぞれのテーマに分かれて、Amazon ウェブ サービス ジャパン株式会社が主催するオンラインセミナーシリーズです。

質問を投げることができます！

- 書き込んだ質問は、主催者にしか見えません
- 今後のロードマップに関するご質問はお答えできませんのでご了承下さい

- ① 吹き出しをクリック
- ② 質問を入力
- ③ Sendをクリック



Twitter ハッシュタグは以下をご利用ください
#awsblackbelt

内容についての注意点

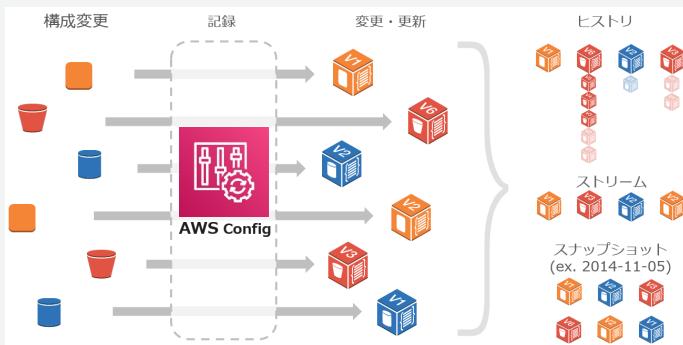
- 本資料では2020年12月8日時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報はAWS公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格とAWS公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます。
- AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at <http://aws.amazon.com/agreement/>. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

本日のアジェンダ

1. AWS Config のおさらい
2. 新機能：適合パックの概要
3. 新機能：サードパーティリソースサポートの概要
4. 組織のセキュリティ管理をより効率化するその他のアップデート
5. まとめ

AWS Config のおさらい

構成情報の記録、評価を行うマネージドサービス



特徴 (<http://aws.amazon.com/jp/config/>)

- AWS リソースの構成情報、変更履歴を記録
 - 構成情報を定期的にスナップショットとして保存
 - 必要に応じ SNS を使った通知も可能
- 構成情報を元に、現在のシステムがあるべき状態になっているか評価できる (Config Rules)

価格体系 (<http://aws.amazon.com/jp/config/pricing/>)

- 1 回の設定項目の記録につき 0.003 USD
- Config Rules ルール評価ごとに 0.001USD
- ログが保存される Amazon S3 の料金

AWS Config の利用例

特定のセキュリティグループを利用しているリソースを検索
(SSH/RDPがフルオープンのSGが発見された！ 影響は？)

サンプル SQL クエリ

List all EC2 instances currently running in my account	クエリの使用
List all EC2 instances with AMI ID "ami-2a69aa47"	クエリの使用
List all EBS volumes that are not in use	クエリの使用
List all resources that are related to security group "sg-12345"	クエリの使用
List all DynamoDB tables where server-side encryption is disabled	クエリの使用
List all IAM users created between date "2018-12-01T00:00" and date "2019-02-28T00:00"	クエリの使用

高度なクエリ

下記の SQL クエリエディタを使用して、リソース設定データをクエリします。サンプルクエリ

SQL クエリエディタ

```
1 SELECT
2     resourceId,
3     resourceName,
4     resourceType,
5     relationships
6 WHERE
7     relationships.resourceId = 'sg-e7k...8b'
```

List all RDS instances running data

結果

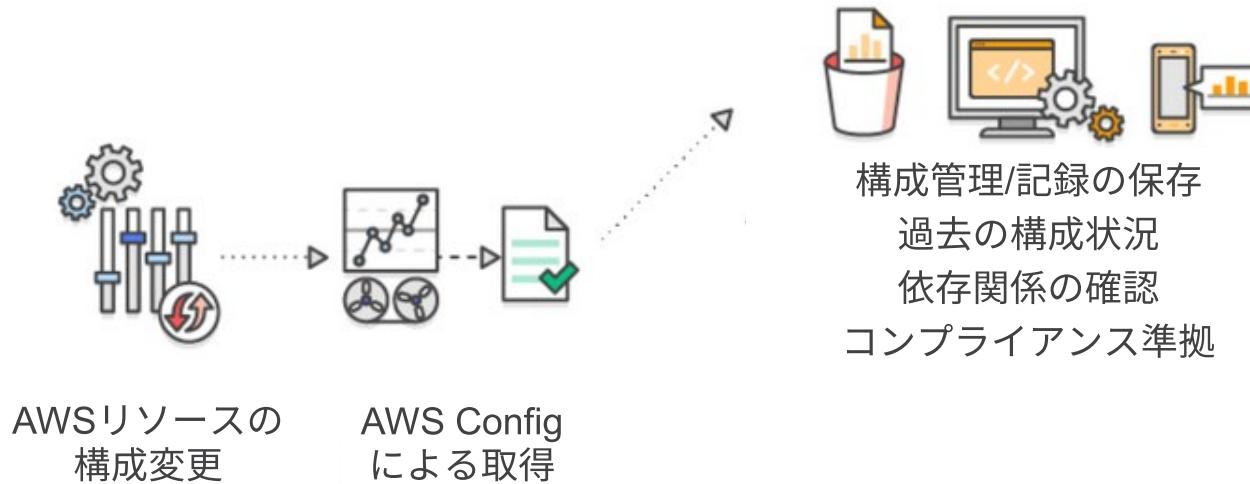
List all RDS DB Instances that are p

List all Lambda functions using runti

List all S3 buckets where versioning

resourceId	resourceName	resourceType	relationships
eni-060e	910765db7	AWS::EC2::NetworkInterface	4 個の項目
eni-07f22	f62125ef3	AWS::EC2::NetworkInterface	4 個の項目
i-081d1e	f2548c0	AWS::EC2::Instance	5 個の項目
i-098590	f2bff2ed	AWS::EC2::Instance	5 個の項目
test_inVF	test_inVPC	AWS::Lambda::Function	4 個の項目
vpc-30c3	7	AWS::EC2::VPC	23 個の項目

AWS Config による構成管理



AWS Config Rules の利用例

パブリック読み込みが許可されたS3バケットを把握

s3-bucket-public-read-prohibited

説明 S3 バケットが読み取りパブリックアクセスを許可していないことを確認します。S3 バケットポリシーまたはバケット ACL で読み取りパブリックアクセスを許可している場合、そのバケットは準拠していません。

コンプライアンス状況

非準拠

リソース ID リソースタイプ リソースのコンプライアンス状況 アクション

リソース ID	リソースタイプ	リソースのコンプライアンス状況	アクション
sk-test	S3 Bucket	非準拠	該当なし

再評価 結果の削除 編集

AWSが提供するマネジドルールを利用して、リスクがある設定を簡単に把握
(160以上のルールを提供) ※2020/12/08現在
+カスタムルールで特定の評価にも対応

必要があれば修復アクションで1click/自動で対応

修復アクションを選択

修復アクションの実行は、AWS Systems Manager Automationを使用して達成されます。AWS が推奨する一連の修復アクションまたはカスタムの修復アクションから選択します。ルールを修復するには、テーブルから範囲内のすべての非準拠リソースを選択します。

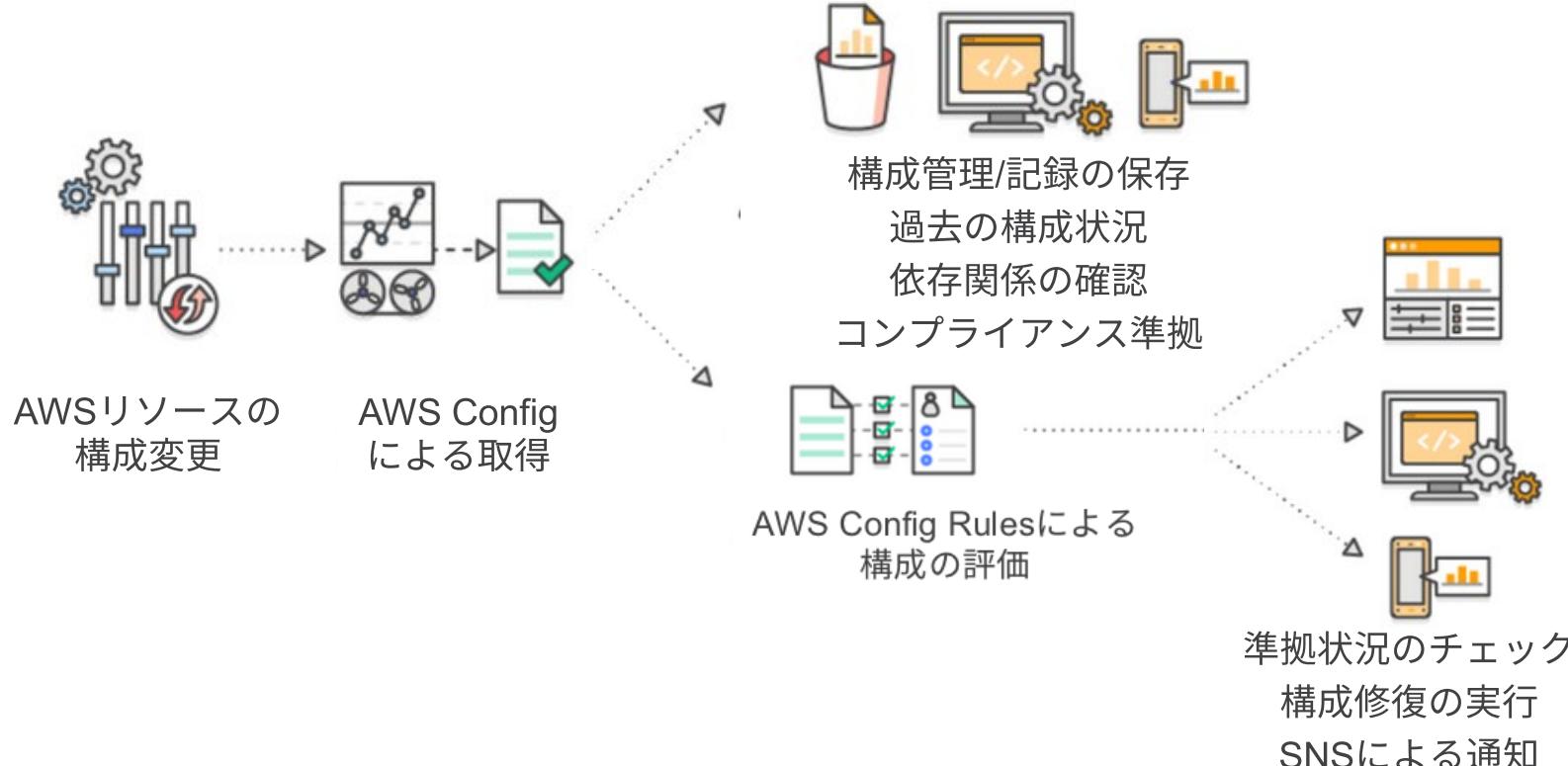
修復アクション AWS-DisableS3BucketPublicReadWrite

Disable S3-Bucket's public WriteRead access via private ACL

リソース ID パラメータ S3BucketName

修復アクションを実行し、パブリック読み込みアクセスを許可を"無効"にすることも可能

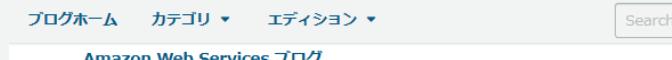
AWS Config Rules で構成情報を評価



基本的な機能については、前回の BlackBelt をご確認ください

[AWS Black Belt Online Seminar] AWS Config 資料及び QA 公開

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/webinar-bb-aws-config-2019/>



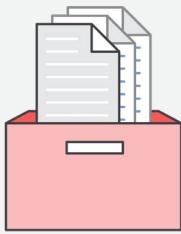
先日(2019/6/18) 開催しました AWS Black Belt Online Seminar 「AWS Config」の資料を公開しました。当日、参加者の皆様から頂いた QA の一部についても共有しております。



新機能のご紹介

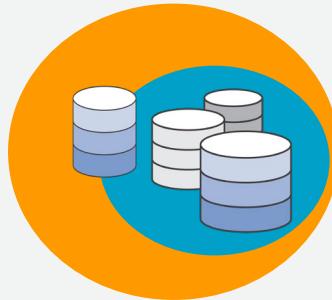
AWS Config のアップデート

適合パック



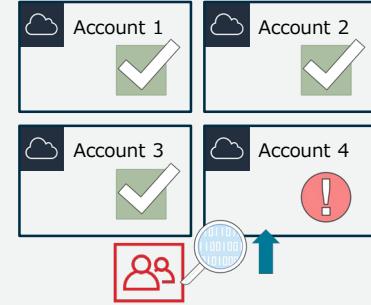
組織全体への展開と
コンプライアンスチェックを
より簡単に

サードパーティ リソースへの対応



AWS リソース以外の
設定変更や
追跡が可能に

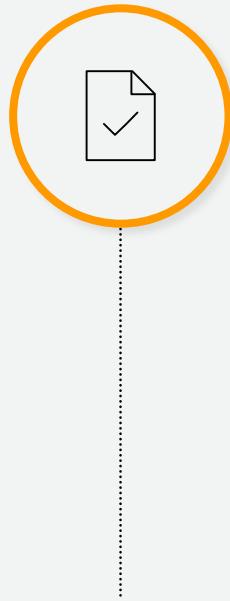
その他の アップデート



組織のセキュリティ管理を
より効率的に

適合パックの概要

AWS Config 適合パック (Conformance Pack)



構成管理のための共通コンプライアンスフレームワーク

- 複数の Config Rule と修復アクションをまとめて用途に応じてパッケージ化
- 単一AWSアカウント、AWS Organizations の組織全体に対して適用可能

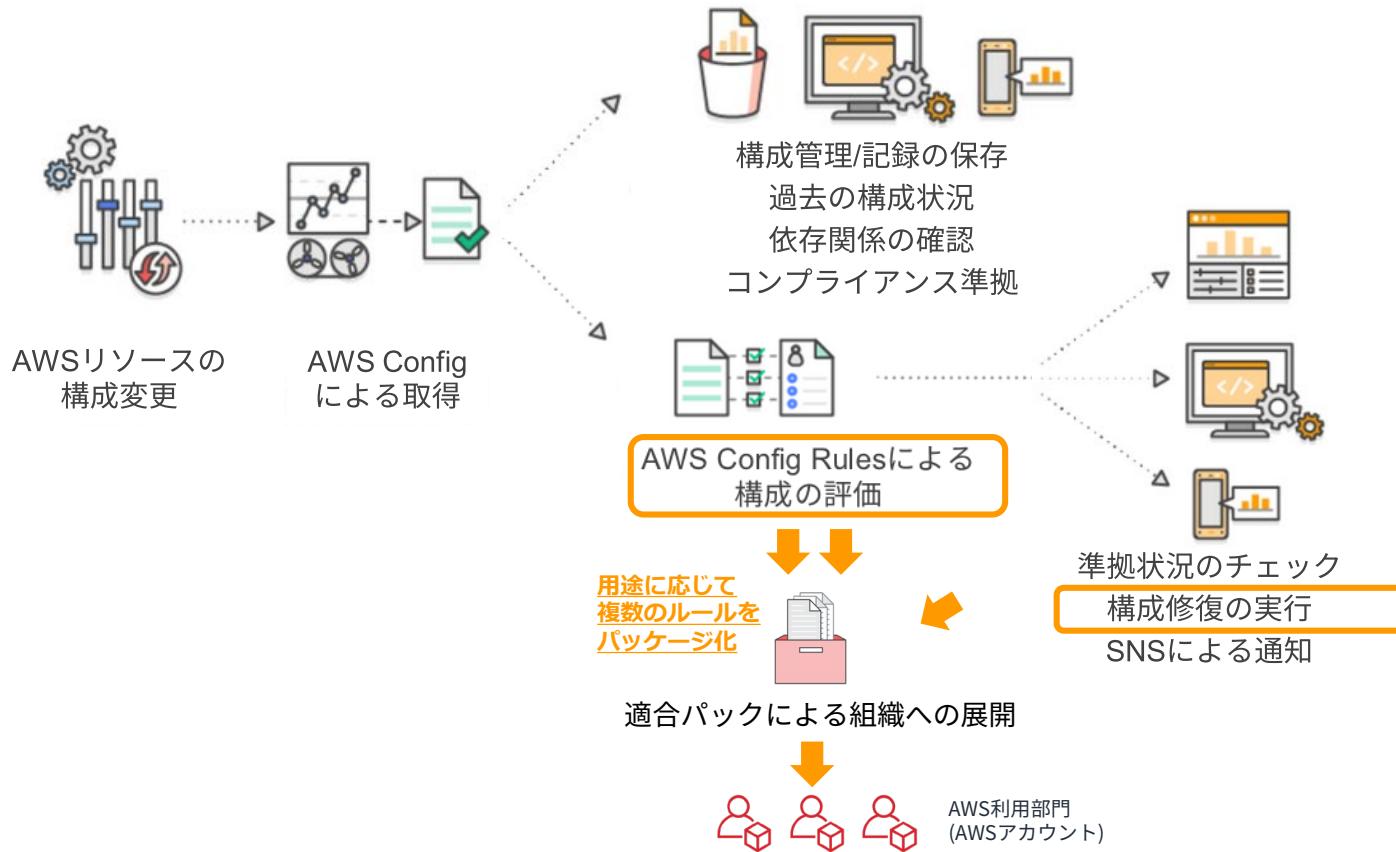
不变性(immutable)

- 個々のルールは、アクセス権限やアカウントの権限に関わらず、デプロイされた適合パックの外部から変更不可
- 組織のマスター アカウントから展開した適合パックは、メンバーアカウントから変更不可

価格体系

- 適合パックによるルール評価ごとに 0.0012USD

AWS Config 適合パック



適合パックの詳細

AWS Config > 適合パック > ControlTowerSample

ControlTowerSample

ルール 設定

ルール (12)

名前	↓ 1つの適合パックに複数の Config Rule	Remediation action	Compliance
CheckForRestrictedSshPolicy-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	⚠ 非準拠
CheckForEbsOptimizedInstance-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	✓ 準拠
CheckForS3PublicWrite-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	✓ 準拠
CheckForRestrictedCommonPortsPolicy-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	⚠ 非準拠
CheckForRootMfa-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	⚠ 非準拠
CheckForS3PublicRead-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	✓ 準拠
CheckForRdsPublicAccess-conformance-pack-beqouusak		設定されていません	✓ 準拠

↑ 各Config Rule の評価結果

適合パックのサンプルテンプレート

「運用のベストプラクティス」など、様々なサンプルを提供
50個を超えるテンプレートを用意（2020/12/08現在）

ドキュメント > AWS Config > 開発者ガイド フィードバック

コンフォーマンスパックのサンプルテンプレート

PDF

AWS Config コンソールに表示されるコンフォーマンスパックの YAML テンプレートを次に示します。コンフォーマンスパックテンプレート内では、1つ以上の AWS Config ルールと修正アクションを使用できます。コンフォーマンスパックに一覧表示されている AWS Config ルールは、AWS Config 管理ルールまたは AWS Config カスタムルールにすることができます。すべてのコンフォーマンスパックテンプレートは、からダウンロードできます[GitHub](#)。

トピック

- AWS Control Tower 発券的ガードレールコンフォーマンスパック
- ABS CCIG 2.0 マテリアルワーカークロードの運用のベストプラクティス
- ABS CCIG 2.0 標準ワーカークロードの運用のベストプラクティス
- ACSC 基本的な 8 運用のベストプラクティス
- ACSC ISM 運用のベストプラクティス
- AI と ML 運用のベストプラクティス
- Amazon の運用上のベスト プラクティス DynamoDB
- Amazon S3 の運用に関するベストプラクティス
- APRA CPG 234 運用のベストプラクティス
- アセット管理の運用のベストプラクティス
- AWS ID とアクセス管理の運用に関するベストプラクティス
- AWS Well-Architected フレームワークの信頼性の柱運用のベストプラクティス
- AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス
- BCP と DR 運用のベストプラクティス

GitHub にて公開 + 日々追加中

Sign up

awslabs / aws-config-rules

Code Issues Pull requests Actions Projects

master / aws-config-rules / aws-config-conformance-packs / Go to file

tysodotcom Updated names of the CIS AWS Foundation benchmark y... 24 days ago History

..

AWS-Control-Tower-Dete... Added Control Tower Conformance Pack 2 months ago

Operational-Best-Practice... Additional conformance packs 2 months ago

Operational-Best-Practice... Additional conformance packs 2 months ago

Operational-Best-Practice... Updated ACSC Related Conformance Packs last month

Operational-Best-Practice... Updated ACSC Related Conformance Packs last month

適合パックのサンプルテンプレート (1/2)

各国や業界のセキュリティ要件、ガイドライン、レギュレーションなどに対するテンプレート

テンプレート名	テンプレート名
ABS CCIG 2.0 マテリアルワークコードの運用のベストプラクティス	K-ISMS 運用のベストプラクティス
ABS CCIG 2.0 標準ワークコードの運用のベストプラクティス	MAS 通知 655 運用のベストプラクティス
ACSC 基本的な 8 運用のベストプラクティス	MAS TRMG 2013 運用のベストプラクティス
ACSC ISM 運用のベストプラクティス	NC TRMG の運用のベストプラクティス
APRA CPG 234 運用のベストプラクティス	NERC CIP 運用のベストプラクティス
BNM 運用のベストプラクティスRMiT	NCSC クラウドセキュリティ原則の運用のベストプラクティス
CIS 運用のベストプラクティス	NIST 800-53 リビジョン 4 運用のベストプラクティス
CMMC レベル 1 運用のベストプラクティス	NIST 800 171 運用のベストプラクティス
CMMC レベル 2 運用のベストプラクティス	NIST CIS 運用のベストプラクティス
運用のベストプラクティス FedRAMP (低)	NYDFS 23 運用のベストプラクティス
運用のベストプラクティス FedRAMP (中)	PCI DSS 3.2.1 運用のベストプラクティス
FFIEC の運用のベストプラクティス	RBI MD-ITF 運用のベストプラクティス
HIPAA セキュリティ運用のベストプラクティス	

適合パックのサンプルテンプレート (2/2)

各AWSサービスのベストプラクティスや、Well-Architected フレームワークの視点で用意されたテンプレート

テンプレート名	テンプレート名
AWS Control Tower 発見的ガードレールコンフォーマンスパック	クエリに関する運用のベストプラクティス - コーディングのベストプラクティス
AI と ML 運用のベストプラクティス	アセット管理の運用のベストプラクティス
Amazon の運用上のベスト プラクティス DynamoDB	ロードバランシング運用のベストプラクティス
Amazon S3の運用に関するベストプラクティス	ログ記録運用のベストプラクティス
EC2 運用のベストプラクティス	管理とガバナンスサービスの運用のベストプラクティス
AWS IDとアクセス管理の運用に関するベストプラクティス	モニタリング運用のベストプラクティス
AWS Well-Architected フレームワークの信頼性の柱運用のベストプラクティス	ネットワーキングとコンテンツ配信サービスの運用のベストプラクティス
AWS Well-Architected フレームワーク セキュリティ柱の運用のベストプラクティス	パブリックにアクセス可能なリソース運用のベストプラクティス
BCP と DR 運用のベストプラクティス	セキュリティ、アイデンティティ、およびコンプライアンスサービスの運用のベストプラクティス
コンピューティングサービス運用のベストプラクティス	サーバーレス運用のベストプラクティス
データの耐障害性に関する運用のベストプラクティス	ストレージサービス運用のベストプラクティス
データベースサービス運用のベストプラクティス	修正アクションを含むテンプレートの例
データレイクおよび分析サービスの運用のベストプラクティス	カスタムコンフォーマンスパック
暗号化とキー管理の運用のベストプラクティス	

適合パックの設定イメージ (1/3)

AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

AWS Config ×

AWS Config > 適合パック

適合パック

適合パックは、AWS アカウントで単一のエンティティとしてデプロイおよびモニタリングできる AWS Config ルールおよび修復アクションのコレクションです。 [詳細はこちら](#)

適合パック

名前またはコンプライアンスステータスでルールをフィルタリングする

名前	デプロイ	コンプライアンス
MyS3CPack	完了しました	⚠ 非準拠
OrgConformsPack-CISPack-gahzupvp	完了しました	⚠ 非準拠

ルール
リソース
アグリゲータ
ルール
リソース
認証
高度なクエリ
設定

最新情報 □
ドキュメント □
パートナー □
よくある質問 □
料金表 □

テンプレートを指定

テンプレートの詳細

適合パックテンプレート
すべての適合パックはテンプレートに基づいています。テンプレートは、AWS Config ルールと修復アクションをデプロイする AWS アカウントとリージョンに関する設定情報を含む YAML ファイルです。

サンプルテンプレートを使用 テンプレートをアップロード

サンプルテンプレート

well

Operational Best Practices for AWS Well Architected Reliability Pillar
Operational Best Practices for AWS Well Architected Security Pillar
サンプルテンプレートを選択

サンプルテンプレートを表示するには、次を参照してください [適合パックのサンプルテンプレート](#)です。 □

キャンセル 次へ

適合パックの設定イメージ (2/3)

AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

The screenshot shows three panels from the AWS CloudFormation console:

- 適合パックの詳細を指定**:
 - 適合パックの詳細**
 - リージョン: Asia Pacific (Tokyo)
 - 適合パック名: mycpack-WASEC
 - 適合パック名には、文字 (A~Z および a~z) 、数字 (0~9)、できません。
 - パラメータ - オプション**: パラメータが入力されていません。ボタン: パラメータを追加
- 適合パックの確認とデプロイ**:
 - テンプレートの詳細**
 - サンプルテンプレート: Operational Best Practices for AWS Well Architected Security Pillar
 - 適合パック**
 - 適合パックは、AWS アカウントで単一のエンティティとしてデプロイおよびモニタリングできる AWS Config ルールおよび修復アクションのコレクションです。 詳細は[こちら](#)
 - 検索バー: 名前またはコンプライアンスステータスでルールをフィルタリングする
 - リスト:

名前	デプロイ	コンプライアンス
mycpack-WASEC	完了しました	△ 非準拠
MyS3CPack	完了しました	△ 非準拠
OrgConformsPack-CISPack-gahzupvp	完了しました	△ 非準拠

適合パックの設定イメージ (3/3)

AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

mycpack-WASEC

デプロイ:
④完了しました

ルール 設定

ルール (50)

名前 修復アクション コンプライアンス

lambda-inside-vpc-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	△ 非準拠
s3-bucket-default-lock-enabled-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	△ 非準拠
account-part-of-organizations-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	○ 準拠
lambda-function-public-access-prohibited-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	○ 準拠
guardduty-enabled-centralized-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	○ 準拠
elasticsearch-encrypted-at-rest-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	△ 非準拠
s3-bucket-public-write-prohibited-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	○ 準拠
elasticsearch-node-to-node-encryption-check-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	△ 非準拠
vpc-sg-open-only-to-authorized-ports-conformance-pack-komqljuhb	設定されていません	△ 非準拠

vpc-sg-open-only-to-authorized-ports-conformance-pack-komqljuhb アクション ▾

ルールの詳細

説明 Checks whether any security groups with inbound 0.0.0.0/0 have TCP or UDP ports accessible. The rule is NON_COMPLIANT when a security group with inbound 0.0.0.0/0 has a port accessible which is not specified in the rule parameters.

トリガータイプ オーバーサイジングの設定変更
設定変更

変更範囲 リソース

Config ルール ARN arn:aws:config:northeast-1:27425...:22:config-rule/aws-service-rule/config-conforms.amazonaws.com/config-rule-dfsyre

リソースタイプ EC2 SecurityGroup

パラメータ

キー	タイプ	値	説明
authorizedTcpPorts	String	443	Comma-separated list of TCP ports authorized to be open to 0.0.0.0/0. Ranges are defined by dash, for example, "443,1020-1025".
authorizedUdpPorts	String		Comma-separated list of UDP ports authorized to be open to 0.0.0.0/0. Ranges are defined by dash, for example, "500,1020-1025".

対象範囲内のリソース

非準拠	ID	タイプ	ステータス	注釈
sg-03ef42b	c1262	EC2 SecurityGroup	-	One or more TCP ports (22) are not in range of the authorized ports.
sg-06617e	337da	EC2 SecurityGroup	-	One or more TCP ports (3389) are not in range of the authorized ports.
sg-08ce092	32a1f	EC2 SecurityGroup	-	One or more TCP ports (80) are not in range of the authorized ports.

適合パック : AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

各質問に関連した Config Rule がまとめられている

質問	含まれる Config Rule
SEC 1. ワークロードを安全に運用するには、どうすればよいですか?	account-part-of-organizations, codebuild-project-envvar-awscred-check, iam-root-access-key-check, root-account-hardware-mfa-enabled, root-account-mfa-enabled,
SEC 2. ユーザー ID とマシン ID はどのように管理したらよいでしょうか?	access-keys-rotated, emr-kerberos-enabled, iam-password-policy, iam-user-group-membership-check, iam-user-mfa-enabled, iam-root-access-key-check, root-account-hardware-mfa-enabled, root-account-mfa-enabled, iam-user-unused-credentials-check, mfa-enabled-for-iam-console-access, secretsmanager-rotation-enabled-check, secretsmanager-scheduled-rotation-success-check,
SEC 3. 人とマシンのアクセス許可はどのように管理すればよいでしょうか?	elb-deletion-protection-enabled, emr-kerberos-enabled, iam-group-has-users-check, iam-no-inline-policy-check, iam-policy-no-statements-with-admin-access, iam-user-no-policies-check, rds-instance-deletion-protection-enabled,
SEC 4. セキュリティイベントをどのように検出し、調査していますか?	api-gw-execution-logging-enabled, cloud-trail-cloud-watch-logs-enabled, cloudtrail-enabled cloud-trail-encryption-enabled, cloud-trail-log-file-validation-enabled, cloudtrail-s3-dataevents-enabled, cloudtrail-security-trail-enabled, cloudwatch-alarm-action-check, cw-loggroup-retention-period-check, elb-logging-enabled, guardduty-enabled-centralized, multi-region-cloudtrail-enabled, rds-logging-enabled, redshift-cluster-configuration-check, s3-bucket-logging-enabled, securityhub-enabled, vpc-flow-logs-enabled, wafv2-logging-enabled
SEC 5. ネットワークリソースをどのように保護しますか?	alb-waf-enabled, dms-replication-not-public, ebs-snapshot-public-restorable-check, ec2-instance-no-public-ip, ec2-security-group-attached-to-eni, elasticsearch-in-vpc-only, emr-master-no-public-ip, restricted-ssh, ec2-instances-in-vpc, internet-gateway-authorized-vpc-only, lambda-function-public-access-prohibited, lambda-inside-vpc, rds-instance-public-access-check, rds-snapshots-public-prohibited, redshift-cluster-public-access-check, restricted-common-ports, s3-account-level-public-access-blocks, sagemaker-notebook-no-direct-internet-access, vpc-default-security-group-closed, vpc-sg-open-only-to-authorized-ports

適合パック : AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

質問	含まれる Config Rule
SEC 6. コンピューティングリソースをどのように保護していますか?	ec2-imdsv2-check, ec2-instance-managed-by-systems-manager, ec2-managedinstance-association-compliance-status-check, ec2-managedinstance-patch-compliance-status-check
SEC 7. どのようにデータを分類していますか?	cw-loggroup-retention-period-check, guardduty-non-archived-findings
SEC 8. 保管時のデータをどのように保護していますか?	api-gw-cache-enabled-and-encrypted, cloud-trail-encryption-enabled, cloudwatch-log-group-encrypted, cmk-backing-key-rotation-enabled, dms-replication-not-public, dynamodb-table-encrypted-kms, ebs-snapshot-public-restorable-check, ec2-ebs-encryption-by-default, ec2-instance-no-public-ip, efs-encrypted-check, elasticsearch-encrypted-at-rest, elasticsearch-in-vpc-only, emr-master-no-public-ip, encrypted-volumes, ec2-instances-in-vpc, kms-cmk-not-scheduled-for-deletion, lambda-function-public-access-prohibited, lambda-inside-vpc, rds-instance-public-access-check, rds-snapshot-encrypted, rds-snapshots-public-prohibited, rds-storage-encrypted, redshift-cluster-configuration-check, redshift-cluster-public-access-check, s3-account-level-public-access-blocks, s3-bucket-default-lock-enabled, s3-bucket-public-read-prohibited, s3-bucket-public-write-prohibited, s3-bucket-server-side-encryption-enabled, s3-bucket-versioning-enabled, s3-default-encryption-kms, sagemaker-endpoint-configuration-kms-key-configured, sagemaker-notebook-instance-kms-key-configured, sagemaker-notebook-no-direct-internet-access, sns-encrypted-kms
SEC 9. 転送時のデータをどのように保護していますか?	acm-certificate-expiration-check, ulb-http-drop-invalid-header-enabled, alb-http-to-https-redirection-check, elasticsearch-node-to-node-encryption-check, elb-acm-certificate-required, elb-tls-https-listeners-only, redshift-require-tls-ssl, s3-bucket-ssl-requests-only
SEC 10. インシデントの予測、対応、復旧はどのように行いますか?	-

存在する AWS リソース「のみ」 「自動で」評価 = 利用状況に即した準拠状況を確認

各サンプルテンプレートの詳細説明

AWS Well-Architected フレームワークセキュリティ柱の運用のベストプラクティス

PDF

コンフォーマンスパックは、マネージド型またはカスタムの AWS Config ルールと AWS Config 修復アクションを使用して、セキュリティ、運用中、またはコスト最適化ガバナンスチェックを作成できるように設計された汎用コンプライアンスフレームワークを提供します。コンフォーマンスパックは、サンプルテンプレートとして、特定のガバナンスまたはコンプライアンス標準への準拠を完全に保証するようには設計されていません。サービスの使用が、運用可能な法的および規制の要件を満たしているかどうかは、お客様が評価してください。

以下は、アマゾンウェブサービスの Well-Architected フレームワークセキュリティ柱と AWS マネージド Config ルール間のマッピングのサンプルです。各 Config ルールは、特定の AWS リソースに適用され、柱の設計原則の 1 つ以上に関連しています。Well-Architected フレームワークカテゴリーは、複数の Config ルールに関連している場合があります。これらのマッピングに関する詳細およびガイダンスについては、以下の表を参照してください。

このコンフォーマンスパックは、AWS Security Assurance Services LLC (AWS SAS) によって検証されました。AWS SAS は、Payment Card Industry Qualified Security Assessors (QSA)、HITRUST 認定 共通セキュリティフレームワークプロブライナー (CCSFP)、およびさまざまな業界フレームワークのガイドラインと評価を提供することを認定されたコンプライアンスプロフェッショナルのチームです。AWS SAS プロフェッショナルはこのコンフォーマンスパックを設計し、お客様が Well-Architected フレームワークセキュリティの柱設計原則のサブセットにアクセスできるようにしました。

AWS リージョン: を除く、サポートされているすべての AWS リージョン中東 (バーレーン)

コントロール ID	コントロールの説明	AWS Config ルール	ガイダンス
SEC-1	ワーカーはどのように安全に運用しますか? ワーカードを安全に運用するには、セキュリティのすべての領域に対してベストプラクティスの上書きを適用する必要があります。組織レベルとワーカードレベルで運用上の優秀性において定義した要件とプロセスを取得し、すべての領域に適用します。AWS や業界の推薦事項、脅威インテリジェンスに関する最新情報を入手して、脅威モデルとコントロール目的の進化に役立てることができます。セキュリティプロセス、テスト、検証を自動化することで、セキュリティオペレーションをスケールすることができます。	アカウント-パート of-organizations	AWS Organizations 内の AWS アカウントの一元管理は、アカウントが準拠していることを確認するのに役立ちます。一元化されたアカウントガバナンスがないと、アカウント設定が不整合になり、リソースと機密データが公開される可能性があります。
SEC-1	ワーカーはどのように安全に運用しますか? ワーカードを安全に運用するには、セキュリティのすべての領域に対してベストプラクティスの上書きを適用する必要があります。組織レベルとワーカードレベルで運用上の優秀性において定義した要件とプロセスを取得し、すべての領域に適用します。AWS や業界の推薦事項、脅威インテリジェンスに関する最新情報を入手して、脅威モデルとコントロール目的の進化に役立てることができます。セキュリティプロセス、テスト、検証を自動化することで、セキュリティオペレーションをスケールすることができます。	codebuild-project-envvar-awscred-check	認証情報 AWS_ACCESS_KEY_ID および AWS_SECRET_ACCESS_KEY が AWS Codebuild プロジェクト環境に存在しないことを確認します。これらの変数はクリアテキストで保存しないでください。これらの変数をクリアテキストに保存すると、意図しないデータ漏えいや不正アクセスの原因になります。
SEC-1	ワーカーはどのように安全に運用しますか? ワーカードを安全に運用するには、セキュリティのすべての領域に対してベストプラクティスの上書きを適用する必要があります。組織レベルとワーカードレベルで運用上の	iam-root-access-key-check	ルートユーザーに AWS Identity and Access Management (IAM) ロールにアタッチされたアクセスキーがないことを確認することにより、システムとアセットへのアクセスを制御できます。ルートアクセスキーが削除されていることを確認します。代わりに、ロールベースの AWS アカウントを作成して使用し、最小機能の原則を組み込みます。

適合パック：カスタムテンプレート

ユーザー独自の評価内容をカスタムテンプレートとして作成可能

- GitHubからテンプレートをダウンロード
(yaml形式)

The screenshot shows a GitHub repository page for 'aws-config-rules / aws-config-conformance-packs / custom-conformance-pack.yaml'. The code listing contains several AWS CloudFormation resources, specifically AWS::Config::ConfigRule, defined under the 'Resources' section. These rules check for EBS-optimized instances, unattached EBS volumes, and encrypted volumes.

```
aws-config-rules / aws-config-conformance-packs / custom-conformance-pack.yaml
tysodotcom Added S3 and DynamoDB with remediation conformance... History
1 contributor
Raw Blame
46 lines (46 sloc) 1.3 KB
Parameters:
  CustomConfigRuleLambdaArn:
    Type: String
    Description: The ARN of the custom config rule lambda.
  ...
Resources:
  CustomRuleForEC2:
    Type: AWS::Config::ConfigRule
    Properties:
      ConfigRuleName: "CustomRuleForEC2"
      Scope:
        ComplianceResourceTypes:
          - AWS::EC2::Volume
      Source:
        Owner: AWS
        SourceIdentifier: EC2_VOLUME_INUSE_CHECK
      ...
CheckForEbsOptimizedInstance:
  Type: AWS::Config::ConfigRule
  Properties:
    ConfigRuleName: CheckForEbsOptimizedInstance
    Description: Disallow launch of EC2 instance types that are not EBS-optimized.
    Source:
      Owner: AWS
      SourceIdentifier: EBS_OPTIMIZED_INSTANCE
    ...
CheckForEc2VolumesInUse:
  Type: AWS::Config::ConfigRule
  Properties:
    ConfigRuleName: CheckForEc2VolumesInUse
    Description: Disallow EBS volumes that are unattached.
    InputParameters:
      deleteOnTermination: true
    Source:
      Owner: AWS
      SourceIdentifier: EC2_VOLUME_INUSE_CHECK
    ...
CheckForEncryptedVolume:
  Type: AWS::Config::ConfigRule
  Properties:
    ConfigRuleName: CheckForEncryptedVolume
    ...
  
```

- 修正してカスタムテンプレート化

The screenshot shows a CloudFormation YAML template with the 'Resources' section highlighted by a yellow box. This section contains three AWS::Config::ConfigRule resources: 'CheckForEbsOptimizedInstance', 'CheckForEc2VolumesInUse', and 'CheckForEncryptedVolume'. Each resource has its type, properties, and source defined.

```
Resources:
  CheckForEbsOptimizedInstance:
    Type: AWS::Config::ConfigRule
    Properties:
      ConfigRuleName: CheckForEbsOptimizedInstance
      Description: Disallow launch of EC2 instance types that are not EBS-optimized.
      Source:
        Owner: AWS
        SourceIdentifier: EBS_OPTIMIZED_INSTANCE
      ...
  CheckForEc2VolumesInUse:
    Type: AWS::Config::ConfigRule
    Properties:
      ConfigRuleName: CheckForEc2VolumesInUse
      Description: Disallow EBS volumes that are unattached.
      InputParameters:
        deleteOnTermination: true
      Source:
        Owner: AWS
        SourceIdentifier: EC2_VOLUME_INUSE_CHECK
      ...
  CheckForEncryptedVolume:
    Type: AWS::Config::ConfigRule
    Properties:
      ConfigRuleName: CheckForEncryptedVolume
      ...
  
```

- Resources 配下に Config Rule を記載
- CloudFormation フォーマットの Config Rules 定義

- 適合パックのデプロイ時にアップロードして利用

The screenshot shows the 'テンプレートを指定' (Specify a template) step of the CloudFormation wizard. It includes sections for 'テンプレートの詳細' (Template details), 'テンプレートソースを指定' (Specify template source), and 'テンプレートファイルをアップロード' (Upload template file). A note at the top states that the template must be a YAML file containing AWS Config rules and remediation actions.

テンプレートを指定

テンプレートの詳細

適合パックテンプレート
すべての適合パックはテンプレートに基づいています。テンプレートは、AWS Config ルールと修復アクションをデプロイする AWS アカウントとリージョンに関する設定情報を含む YAML ファイルです。

サンプルテンプレートを使用 テンプレートをアップロード

テンプレートの場所

テンプレートは、AWS Config ルールと修復アクションを含む YAML ファイルです。

テンプレートソースを指定

Amazon S3 バケット内の既存のテンプレートを使用するか、ローカルマシンからテンプレートをアップロードします。テンプレートが 50 KB を超える場合は、Amazon S3 バケットにアップロードして、そのバケットを選択します。

Amazon S3 バケット テンプレートファイルをアップロード

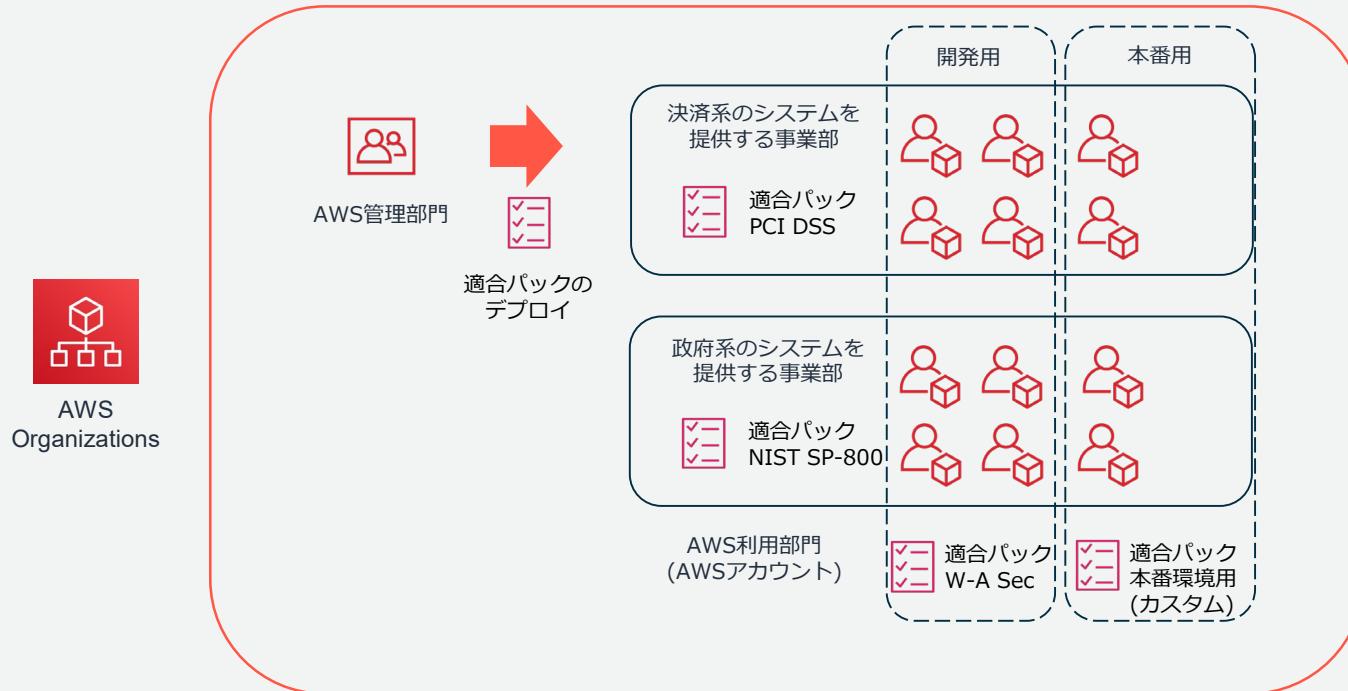
テンプレートファイルをアップロード

YAML 形式のファイル

ファイルを選択

MyCustomCPack_Org.yaml

適合パックによるアカウント特性や組織特性に応じた評価



サードパーティリソースへの対応

AWS Config が対応しているリソース



Amazon VPC



Amazon EC2



Amazon S3

Classic Load
BalancersApplication Load
BalancersAmazon EBS
volumesAWS Service
CatalogAWS Key Management
Service

AWS CloudTrail



AWS IAM



Amazon Redshift



Amazon RDS

AWS Systems
ManagerAWS Certificate
ManagerAmazon API
GatewayAmazon Simple
Notification ServiceAmazon CloudWatch
alarmsAWS CloudFormation
stacksAmazon DynamoDB
tablesAWS Auto Scaling
groups

AWS CodeBuild



AWS CodePipeline

Amazon Quantum
Ledger DatabaseAmazon Simple
Queue Service

AWS WAF *1



Amazon CloudFront *1

AWS Elastic
Beanstalk

AWS Lambda



AWS X-Ray



AWS Shield *1

Amazon Elasticsearch
Service3rd Party
Resources

*1: グローバルサービスは米国東部（バージニア北部）リージョンでサポート

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/config/latest/developerguide/resource-config-reference.html

サードパーティリソース例： WordPress の構成情報を Config で管理

AWS Config

- ダッシュボード
- 適合パック
- ルール
- リソース**
- ▼ アグリゲータ
 - ルール
 - リソース
 - 認証
 - 高度なクエリ
 - 設定
- 最新情報
- ドキュメント
- パートナー
- よくある質問
- 料金表

AWS Config > リソース

リソースのインベントリ

AWS Config が記録した既存または削除されたリソースを検索します。特定のリソースについては、リソースの詳細と設定タイムライン、またはコンプライアンスマイルを確認してください。リソース設定タイムラインを使用すると、特定のリソースについて長期間にわたってキャプチャされたすべての設定項目を表示できます。リソースコンプライアンスマイルを使用すると、コンプライアンスステータスの変更を確認できます。リソース設定をクエリするには、次を使用します [高度な SQL クエリエディタ](#)。

リソース (85)	詳細を表示	リソースタイムライン
リソースカテゴリ	リソースタイプ	コンプライアンス
すべてのリソース	すべてのリソースタイプ	コンプライアンスのステータス
リソース識別子 - オプション	<input type="checkbox"/> 削除されたリソースを含める	
<input type="text"/> リソース識別子を入力		
< 1 2 3 ... > ①		
リソース識別子	タイプ	コンプライアンス
mywordpress-01	Testing WordPress	-
resource-001	Testing WordPress	-
i-03b717bcd	EC2 Instance	-
arn:aws:acm:ap-northeast-1:...	ACM Certificate	-
subnet-0f17	EC2 Subnet	-

サードパーティリソースの設定や履歴を Config で管理

AWS Config > リソース > mywordpress-01

mywordpress-01

▶ 詳細

▼ 設定項目 (JSON) の表示

```
{  
    "version": "1.3",  
    "accountId": "274251360022",  
    "configurationItemCaptureTime": "2020-11-23T13:37:54.624Z",  
    "configurationItemStatus": "OK",  
    "configurationItemId": "1606138674624",  
    "configurationItemMD5Hash": "",  
    "resourceType": "MyCustomNamespace::Testing::WordPress",  
    "resourceId": "mywordpress-01",  
    "awsRegion": "ap-northeast-1",  
    "tags": {},  
    "relatedEvents": [],  
    "relationships": [],  
    "configuration": {  
        "InstanceId": "i-03b67bcd",  
        "PublicIp": "3.14.57",  
        "SubnetId": "subnet-843df",  
        "Name": "MyCustomResourceWordPress"  
    },  
    "supplementaryConfiguration": {},  
    "resourceTransitionStatus": "None"  
}
```

設定の詳細情報

リソースタイムライン

設定タイムライン コンプライアンスタイムライン

23 11月 2020 10:16:17 午後

23 11月 2020 10:37:54 午後 3 变更

▶ 構成の詳細

設定タイムラインで、設定状態の履歴も確認可能

▼ 変更 3

設定変更 3

フィールド	開始	終了
Configuration.SubnetId	"subnet-ala1a"	"subnet-83df"
Configuration.PublicIp		"3.14.57"
Configuration.InstanceId		"i-03b79daf67bcd"

仕組み：CloudFormation リソースプロバイダ

CloudFormation レジストリにサードパーティリソースのスキーマを登録
(スキーマをJSON定義して、cloudformation-cli で submit)

The screenshot shows the AWS CloudFormation console interface. On the left, the navigation pane includes 'CloudFormation' (selected), 'Stacks', 'StackSets', 'Exports', 'Designer', and 'CloudFormation レジストリ' (expanded) with 'Resource Types' selected. At the bottom left is a 'Feedback' link. The main content area shows the 'Resource Types' page under 'CloudFormation レジストリ: リソースタイプ'. A specific resource type, 'MyCustomNamespace::Testing::WordPress', is highlighted with an orange border and an orange arrow points from its definition in the JSON schema on the right to its listing in the console.

CloudFormation

CloudFormation > CloudFormation レジストリ: リソースタイプ

リソースタイプ

AWS が新しくなりました。新しい協力会社も登場。お客様の組織向け(リソースを含む)もスタックテンプレートで利用可能になりました。 詳細

リソースタイプ (1)

プライベート ▾

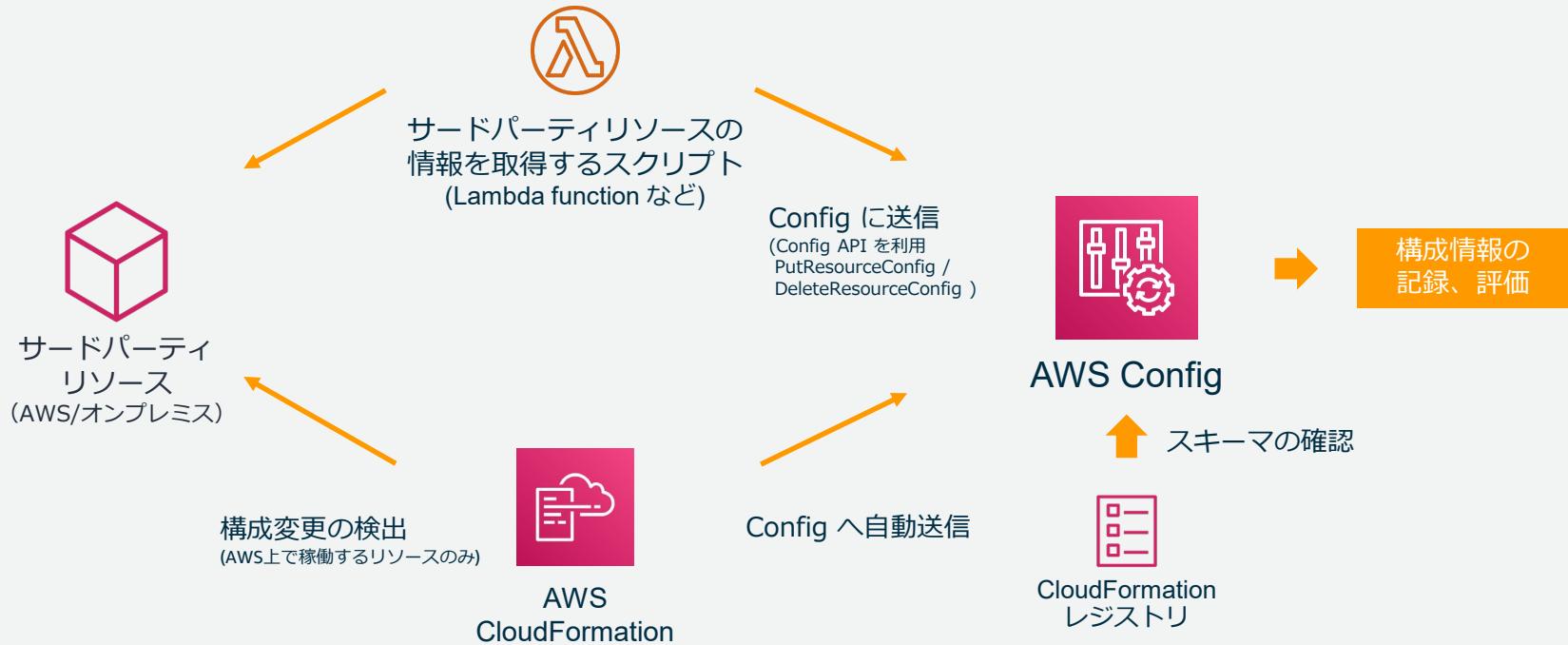
MyCustomNamespace::Testing::WordPress

An example resource that creates a website based on WordPress 5.2.2.

スキーマ

```
{ "typeName": "MyCustomNamespace::Testing::WordPress", "description": "An example resource that creates a website based on WordPress 5.2.2.", "sourceUrl": "https://github.com/aws-cloudformation/aws-cloudformation-rpdk.git", "properties": { "Name": { "description": "A name associated with the website.", "type": "string", "pattern": "^[a-zA-Z0-9]{1,219}\\Z", "minLength": 1, "maxLength": 219 }, "SubnetId": { "description": "A subnet in which to host the website.", "pattern": "^(subnet-[a-f0-9]{13})|(subnet-[a-f0-9]{8})\\Z", "type": "string" }, "InstanceId": { "description": "The ID of the instance that backs the WordPress site.", "type": "string" }, "PublicIp": { "description": "The public IP for the WordPress site.", "type": "string" } }, "required": [ "Name", "SubnetId" ], "primaryIdentifier": [ "/properties/PublicIp", "/properties/InstanceId" ], "readOnlyProperties": [ "/properties/PublicIp", "/properties/InstanceId" ], "additionalProperties": false }
```

サードパーティリソースの構成情報の流れ



ご参考： CloudFormation レジストリ、リソースプロバイダの詳細情報

[AWS Black Belt Online Seminar] AWS CloudFormation deep dive 資料及び QA 公開

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/webinar-bb-aws-cloudformation-deep-dive-2020/>

The screenshot shows a blog post on the AWS Blog. The title is '[AWS Black Belt Online Seminar] AWS CloudFormation deep dive 資料及び QA 公開'. It was posted by AWS Japan Staff on October 13, 2020, in the AWS CloudFormation category. The post includes a share button. Below the title, there is a summary of the seminar's content.

先日(2020/10/06)開催しました AWS Black Belt Online Seminar 「AWS CloudFormation deep dive」の資料を公開しました。当日、参加者の皆様から頂いた QA の一部についても共有しております。

The post also includes a QR code and links to the AWS CloudFormation GitHub repository and documentation.

The screenshot shows the CloudFormation Registry interface. It displays information about the 'AWS::CloudFormation::Interface' resource provider, including its ARN, provider schema version, and configuration details. It also shows the 'Resource Providers' section with a table of providers and their details.

CloudFormationレジストリ

- 独自に作成したCFnリソース定義を登録する
 - 3rd PartyリソースがCFnで管理できる
 - パブリック(AWSのネイティブ)リソースも移行中
 - 既存のテンプレートやスタックは変更不要
 - 現在519(東京リージョン)
- リソースプロバイダスキーマ
 - リソースの設計書に相当するスキーマ
 - 設定可能なプロパティなどを定義する
 - マネジメント
- CFnレジストリを定義する
 - Drift Detection
 - Resource
 - AWS Configuration

リソースプロバイダ実装の流れ

- スキーマを定義する
- ハンズラボを実装する
- ビルトする
- テストする
- レジストリに登録する
- CFnで利用する

実装例(サンプル)

- Unicorn Maker
 - <https://github.com/awslabs/unicorn-maker>
 - モック用の
 - Python(G)
 - Java(GA)はオ

Pythonによる実装例 1

- 事前準備**
 - Cloud9環境(Ubuntu)
 - Python 3.7 (RDPK設定と合わせる)
 - \$ sudo apt install python3.7-venv
 - \$ brew upgrade aws-sam-cli
 - \$ brew install aws-sam-cli
 - \$ AWS CLI
 - \$ AWS SAM CLI
- コード、CFn CLIとプラグイン**
 - unicorn-makerのclone
 - venvの設定
 - cloudformation-cliの導入
(バージョン整合注意)
 - \$ git clone https://github.com/awslabs/unicorn-maker.git
 - \$ cd unicorn-maker/python
 - \$ python setup.py install
 - \$ pip install --upgrade pip
 - \$ pip install cloudformation-cli-python-plugin
 - \$ vi requirements.txt - (cloudformation-cli-python-libのバージョン#2.1.2へ)
 - \$ pip install -r requirements.txt
 - \$ cfn validate
 - \$ pip install -r requirements.txt
 - \$ pip list | grep form
 - cloudformation-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
 - cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-
cloudformation-ll-python-

その他のアップデート

組織のセキュリティ管理をより効率化する機能拡張

アドバンスドクエリ： マルチアカウント、マルチリージョンの検索に対応

AWS Config > 高度なクエリ > クエリエディタ

クエリエディタ

次の SQL クエリエディタを使用して、AWS リソースの設定を照会します。プロパティとそのデータ型のリストは [GitHub](#) にあります。クエリスコープを選択して、この AWS アカウントまたは複数のアカウントとリージョンに対してデータをクエリします。 詳細はこちら ↗

クエリスコープ	Count EC2 Instances
アグリゲータを選択して、このアカウントとリージョン、または複数のアカウントとリージョンに対してクエリを実行するクエリ範囲を定義します。 skorg-config-aggregator ▲ このアカウントとリージョンのみ skorg-config-aggregator	クエリスコープ: skorg-config-aggregator 1 SELECT 2 configuration.instanceType, 3 COUNT(*) 4 WHERE 5 resourceType = 'AWS::EC2::Instance' 6 GROUP BY 7 configuration.instanceType 実行 クリア 実行 (Ctrl+Enter)

出力

configuration.instanceType	COUNT(*)
t2.micro	3
t3.small	2
c4.xlarge	1
c5.2xlarge	1
c5.large	

名前を付けてエクスポート ▾

複数のアカウント、リージョンを横ぐしで検索して状況を確認

AWS Organizations 連携 :

AWS Organizations で委任管理者のサポートと
Config Rule/ 適合パックの一括配布



評価結果をまとめて確認



```
$aws organizations enable-aws-service-access --service-principal=config-multiaccountsetup.amazonaws.com
```

```
$aws configservice put-organization-config-rule ¥  
--organization-config-rule-name my-cloudtrail-enabled ¥  
--organization-managed-rule-metadata ¥  
(snip) RuleIdentifier="CLOUD_TRAIL_ENABLED"
```

```
$aws configservice put-organization-conformance-pack ¥  
--organization-conformance-pack-name="CISPack" ¥  
--template-body="file://CISConformancePack.yaml" ¥  
--delivery-s3-bucket="{awsconfigconforms-your-bucket}"
```

集約ビュー > ルール

ルール

ルールは、必要な構成設定を表します。AWS Config は、リソース設定が該当するルールに準拠しているかどうかを評価し、結果の概要を次のテ

アグリゲータ	コンプライアンス状況	リージョン	アカウント
skorg-config-aggregator	すべて	すべてのリージョン	すべてのアカウント
ルール名	コンプライアンス	リージョン	アカウント
OrgConfigRule-org-cloudtrail-en...	1 非準拠リソース	ap-northeast-1	27-022
OrgConfigRule-org-s3-bucket-s...	4 非準拠リソース	ap-northeast-1	27-022

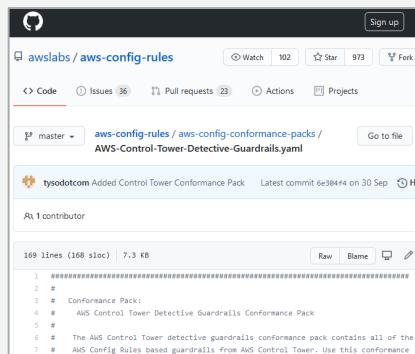
マルチアカウント環境へのガードレールの適用

適合パック : AWS Control Tower Detective Guardrails

- AWS Control Tower のガードレールに含まれる、Config Rule のパッケージ

- AWS Control Tower の機能を切り出して利用
 - Control Tower の発見的ガードレールを既存 AWS アカウントに適用
 - Control Tower がサポートしていない AWS リージョンのセキュリティ統制
 - 組織のセキュリティポリシーに沿って、ガードレールをカスタマイズして利用

1. GitHubからテンプレートをダウンロード



aws-labs / aws-config-rules Watch 102 Star 973 Fork

master aws-config-rules / aws-config-conformance-packs / AWS-Control-Tower-Detective-Guardrails.yaml

tysdotcom Added Control Tower Conformance Pack · Latest commit 6e304f4 on 30 Sep · History

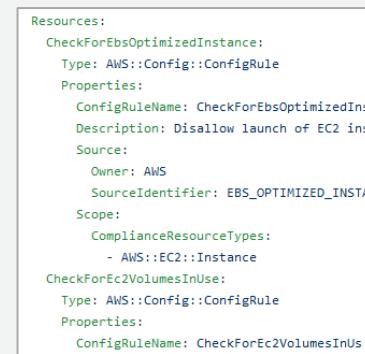
1 contributor

169 lines (168 sloc) · 7.3 KB

Raw Blame

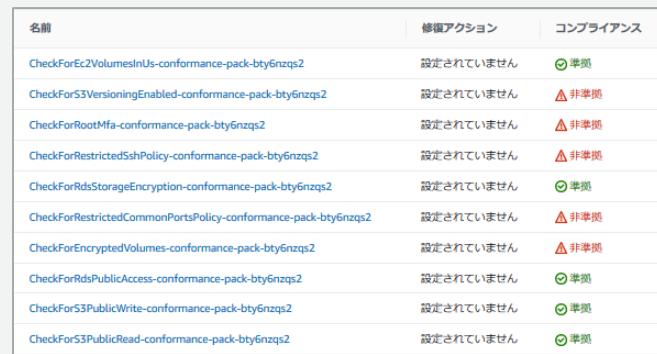
```
1 #####  
2 # Conformance Pack:  
3 # AWS Control Tower Detective Guardrails Conformance Pack  
4 # The AWS Control Tower detective guardrails conformance pack contains all of the  
5 # AWS Config Rules based guardrails from AWS Control Tower. Use this conformance
```

2. 修正してカスタムテンプレート化



```
Resources:  
  CheckForEbsOptimizedInstance:  
    Type: AWS::Config::ConfigRule  
    Properties:  
      ConfigRuleName: CheckForEbsOptimizedInst  
      Description: Disallow launch of EC2 inst  
      Source:  
        Owner: AWS  
        SourceIdentifier: EBS_OPTIMIZED_INSTAN  
      Scope:  
        ComplianceResourceTypes:  
          - AWS::EC2::Instance  
  CheckForEc2VolumesInUse:  
    Type: AWS::Config::ConfigRule  
    Properties:  
      ConfigRuleName: CheckForEc2VolumesInUs
```

3. 組織にセキュリティポリシーに沿った評価



名前	修復アクション	コンプライアンス
CheckForEc2VolumesInUs-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	準拠
CheckForS3VersioningEnabled-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	非準拠
CheckForRootMfa-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	非準拠
CheckForRestrictedSshPolicy-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	非準拠
CheckForRdsStorageEncryption-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	準拠
CheckForRestrictedCommonPortsPolicy-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	非準拠
CheckForEncryptedVolumes-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	非準拠
CheckForRdsPublicAccess-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	準拠
CheckForS3PublicWrite-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	準拠
CheckForS3PublicRead-conformance-pack-bty6nzqs2	設定されていません	準拠

Landing Zone の手動適用がより簡単に

適合パック : AWS Control Tower Detective Guardrails

推奨/選択的	Config Rule	内容
強く推奨	ebs-optimized-instance	Amazon EBS 最適化以外のタイプの Amazon EC2 インスタンスを禁止
強く推奨	ec2-volume-inuse-check	Amazon EC2 インスタンスにアタッチされていない Amazon EBS ボリュームを禁止
強く推奨	encrypted-volumes	Amazon EC2 インスタンスにアタッチされた Amazon EBS ボリュームの暗号化を有効
強く推奨	rds-instance-public-access-check	Amazon RDS データベースインスタンスへのパブリックアクセスを禁止
強く推奨	rds-snapshots-public-prohibited	Amazon RDS データベーススナップショットへのパブリックアクセスを禁止
強く推奨	rds-storage-encrypted	ストレージが暗号化されていない Amazon RDS データベースインスタンスを禁止
強く推奨	restricted-common-ports	RDP を介したインターネット接続を禁止
強く推奨	restricted-ssh	SSH を介したインターネット接続を禁止
強く推奨	root-account-mfa-enabled	root ユーザーに対して MFA を有効
強く推奨	s3-bucket-public-read-prohibited	Amazon S3 バケットへのパブリック読み取りアクセスを禁止
強く推奨	s3-bucket-public-write-prohibited	Amazon S3 バケットへのパブリック書き込みアクセスを禁止
選択的	s3-bucket-versioning-enabled	バージョニングが有効になっていない Amazon S3 バケットを禁止
選択的	iam-user-mfa-enabled	MFA なしの IAM ユーザーへのアクセスを禁止
選択的	mfa-enabled-for-iam-console-access	MFA なしの IAM ユーザーへのコンソールアクセスを禁止

本日のまとめ

1. AWS Config のおさらい

- AWSリソースの構成管理、評価を行うマネージドサービス
- Config でリソースの構成記録、Config Rules で構成評価

2. 新機能：適合パックの概要

- Config Rules を用途に応じてパッケージ化
- 組織のセキュリティ管理やコンプライアンス準拠がより簡単に！

3. 新機能：サードパーティリソースサポートの概要

- AWSリソース以外にも対象に (WordPressなど)

4. 組織のセキュリティ管理をより効率化するその他のアップデート

- マルチアカウント環境での展開、ルール管理、評価、レポーティング
- 組織へのガードレールの適用、カスタマイズ性の向上

**利用シーンが広がった AWS Config を有効活用して
AWS の利用をより安全・快適に！**

Q&A

ご質問については

AWS Japan Blog 「<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/>」にて
後日掲載します。

AWS の日本語資料の場所「AWS 資料」で検索



The screenshot shows the AWS Japan Language Resources page. At the top, there's a navigation bar with the AWS logo, search bar, and links for "日本担当チームへお問い合わせ", "サポート", "日本語", "アカウント", and "コンソールにサインイン". Below the navigation is a horizontal menu with links for "製品", "ソリューション", "料金", "ドキュメント", "学習", "パートナー", "AWS Marketplace", "その他", and a search icon. The main content area features a large title "AWS クラウドサービス活用資料集トップ" and a descriptive paragraph about the service. At the bottom, there are four buttons: "AWS Webinar お申込", "AWS 初心者向け", "業種・ソリューション別資料", and "サービス別資料".

AWS クラウドサービス活用資料集トップ

アマゾン ウェブ サービス (AWS) は安全なクラウドサービスプラットフォームで、ビジネスのスケールと成長をサポートする処理能力、データベースストレージ、およびその他多種多様な機能を提供します。お客様は必要なサービスを選択し、必要な分だけご利用いただけます。それらを活用するために役立つ日本語資料、動画コンテンツを多数ご提供しております。(本サイトは主に、AWS Webinar で使用した資料およびオンデマンドセミナー情報を掲載しています。)

AWS Webinar お申込 »

AWS 初心者向け »

業種・ソリューション別資料 »

サービス別資料 »

<https://amzn.to/JPArchive>

ご視聴ありがとうございました

AWS 公式 Webinar
<https://amzn.to/JPWebinar>



過去資料
<https://amzn.to/JPArchive>

